

【C年】

復活前主日

人類を深く愛し、救い主、み子イエス・キリストをこの世に遣わされた全能の神よ、み子はわたしたちと同じ肉体を取り、己を低くして死に至るまで、十字架の死に至るまであなたに従われました。どうかわたしたちに恵みを与えて、み子の苦しみの模範に従わせ、またそのよみがえりにあずからせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

旧約聖書

朗読者 「旧約聖書はイザヤ書第四十五章二十一節から」

21 意見を交わし、それを述べ、示せ。だれがこのことを昔から知らせ
以前から述べていたかを。それは主であるわたしではない

か。わたしをおいて神はない。正しい神、救いを与える神は

22 地の果てのすべての人々よ

23 わたしを仰いで、救いを得よ。わたしは神、ほかにはいない。わたしは自分にかけて誓う。わたしの口から恵みの言葉

24 恵みの御業と力は主にある、とわたしに言う。主に対して怒りを燃やした者はことごとく

25 イスラエルの子孫はすべて
主によって、正しい者とされて誇る。

朗読者 「旧約聖書を終わります」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱えます。

第二十二編 一〇二節

1 わたしの神、わたしの神、どうしてわたしを見捨てられ
 るのですか＝ どうして遠く離れて助けようとはせず、
 わたしの叫びを聞こうとされないのですか
 2 神よ、昼、わたしが叫んでもあなたはこたえられず＝
 夜、叫んでも心は安らぐことはいない
 3 あなたは聖なる方＝ イスラエルの賛美を住まいとされ
 る
 4 わたしたちの先祖はあなたを信じ＝ あなたは彼らを救
 われた
 5 彼らは助けを求めて聞き入れられ＝ 信じて恥を受け
 ることはなかった
 6 わたしは虫けらであって人ではない＝ 人にそしられ、
 民に侮られる
 7 わたしを見る者はみな笑い＝ わたしをあざけって言
 う
 8 「彼は主を頼みとした。神が救いに来ればよい＝ 神
 が彼に心をかけているのなら、救い出せばよい」
 9 あなたは母の胎からわたしを取り出し＝ その乳房で
 わたしを育てられた
 10 この世に生を受けたときからわたしはあなたのもの＝
 母の胎にいたときから、あなたはわたしの神
 11 わたしから遠く離れないでください＝ 悩みはわたし
 に迫り、助けにくる者もない

使徒書

朗読者 「使徒書はフィリピの信徒への手紙第二章五節か
 ら」

5 互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イ
 エスにもみられるものです。6 キリストは、神の身分であ
 りながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、
 7 かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者
 になられました。人間の姿で現れ、8 へりくだって、死に至
 るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。9 この
 ため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与
 えになりました。10 こうして、天上のもの、地上のもの、地下
 のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、11 すべての舌
 が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父で
 ある神をたたえるのです。

朗読者 「使徒書を終わります」

一同立つ。
 ここで聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 かいしゅう

「また、あなたとともに」

司祭 しさい

「聖ルカによる福音書第二十三章一節以下に記された主イエス・キリストの福音。主に栄光」

会衆 かいしゅう

「主に栄光がありますように」

1 そこで、全会衆が立ち上がり、イエスをピラトのもとに連れて行った。2 そして、イエスをこう訴え始めた。「この男はわが民族を惑わし、皇帝に税を納めるのを禁じ、また、自分が王たるメシアだと言っていることが分かりました。」3 そこで、ピラトがイエスに、「お前がユダヤ人の王なのか」と尋問すると、イエスは、「それは、あなたが言っていることです」とお答えになった。4 ピラトは祭司長たちと群衆に、「わたしはこの男に何の罪も見いだせない」と言った。5 しかし彼らは、「この男は、ガリラヤから始めてこの都に至るまで、ユダヤ全土で教えながら、民衆を扇動しているのです」と言い張った。

6 これを聞いたピラトは、この人はガリラヤ人かと尋ね、7 ヘロデの支配下にあることを知ると、イエスをヘロデのもとに送った。ヘロデも当時、エルサレムに滞在していたのである。8 彼はイエスを見ると、非常に喜んだ。というのは、イエスのうわさを聞いて、ずっと以前から会いたいと思っていたし、イエスが何かしるしを行うのを見たいと望んでいたからである。9 それで、いろいろと尋問したが、イエスは何もお答えにならなかった。10 祭司長たちと律法学者たちはそこにいて、イエスを激しく訴えた。11 ヘロデも自分

の兵士たちと一緒にイエスをあざけり、侮辱したあげく、派手な衣を着せてピラトに送り返した。12 この日、ヘロデとピラトは仲がよくなった。それまでは互いに敵対していたのである。

13 ピラトは、祭司長たちと議員たちと民衆とを呼び集めて、14 言った。「あなたたちは、この男を民衆を惑わす者としてわたしのところに連れて来た。わたしはあなたたちの前で取り調べたが、訴えているような犯罪はこの男には何も見つからなかった。15 ヘロデとても同じであった。それで、我々のもとに送り返してきたのだが、この男は死刑に当たるといふことは何もしていない。16 だから、鞭で懲らして釈放しよう。」17 しかし、人々は一斉に、「その男を殺せ。バラバを釈放しろ」と叫んだ。19 このバラバは、都に起こった暴動と殺人のかどで投獄されていたのである。20 ピラトはイエスを釈放しようと思つて、改めて呼びかけた。21 しかし人々は、「十字架につける、十字架につける」と叫び続けた。22 ピラトは三度目と言った。「いったい、どんな悪事を働いたと言うのか。この男には死刑に当たる犯罪は何も見つからなかった。だから、鞭で懲らしめて釈放しよう。」23 ところが人々は、イエスを十字架につけるようになくまでも大声で要求し続けた。その声はますます強くなつた。24 そこで、ピラトは彼らの要求をいれる決定を下した。25 そして、暴動と殺人のかどで投獄されていたバラバを要求どおりに釈放し、イエスの方は彼らに引き渡して、好きなようにさせた。

26 人々はイエスを引いて行く途中、田舎から出て来たシ

モンというキレネ人を捕まえて、十字架を背負わせ、イエスの後から運ばせた。27 民衆と嘆き悲しむ婦人たちが大きな群れを成して、イエスに従った。28 イエスは婦人たちの方を振り向いて言われた。「エルサレムの娘たち、わたしのために泣くな。むしろ、自分と自分の子供たちのために泣け。29 人々が、『子を産めない女、産んだことのない胎、乳を飲ませたことのない乳房は幸いだ』と言う日が来る。

30 そのとき、人々は山に向かっては、『我々の上に崩れ落ちてくれ』と言ひ、丘に向かっては、

『我々を覆ってくれ』と言ひ始める。

31 『生の木』さえこうされるのなら、『枯れた木』はいったいどうなるのだろうか。」

32 ほかに、二人の犯罪人が、イエスと一緒に死刑にされるために、引かれて行った。33 「されこうべ」と呼ばれている所に来ると、そこで人々はイエスを十字架につけた。犯罪人も、一人は右に一人は左に、十字架につけた。34 「そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのかわからないのです。」人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った。35 民衆は立つて見つめていた。議員たちも、あざ笑って言った。「他人を救ったのだ。もし神からのメシアで、選ばれた者なら、自分を救うがよい。」

36 兵士たちもイエスに近寄り、酸いぶどう酒を突きつけないがら侮辱して、37 言った。「お前がユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ。」38 イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王」と書いた札も掲げてあった。

39 十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。」40 すると、もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れないのか、同じ刑罰を受けているのに。」41 我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」42 そして、「イエスよ、あなたの御国においてになるときには、わたしを思い出してください」と言った。43 するとイエスは、「はつきり言うておくれ、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。

44 既に昼の十二時ごろであった。全地は暗くなり、それが三時まで続いた。45 太陽は光を失っていた。神殿の垂れ幕が真ん中から裂けた。46 イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」こう言うて息を引き取られた。47 百人隊長はこの出来事を見て、「本当に、この人は正しい人だった」と言ひ、神を賛美した。48 見物に集まっていた群衆も皆、これらの出来事を見て、胸を打ちながら帰って行った。49 イエスを知っていたすべての人たちと、ガリラヤから従って来た婦人たちとは遠くに立つて、これらのことを見ていた。

司祭 「主に感謝」
会衆 「主に感謝します」